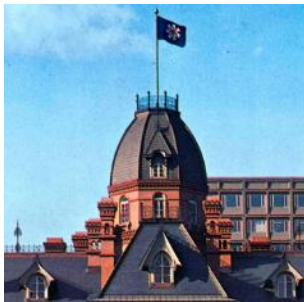


赤れんが庁舎の屋根の銅板は銅の経年変化により色が変わってきました。



昭和43年秋（復原改修直後）

復原改修工事では、新しい銅板で屋根を葺いたので、赤褐色でした。



昭和44年秋頃

竣工の1年後には、既に落ち着いた褐色になっています。



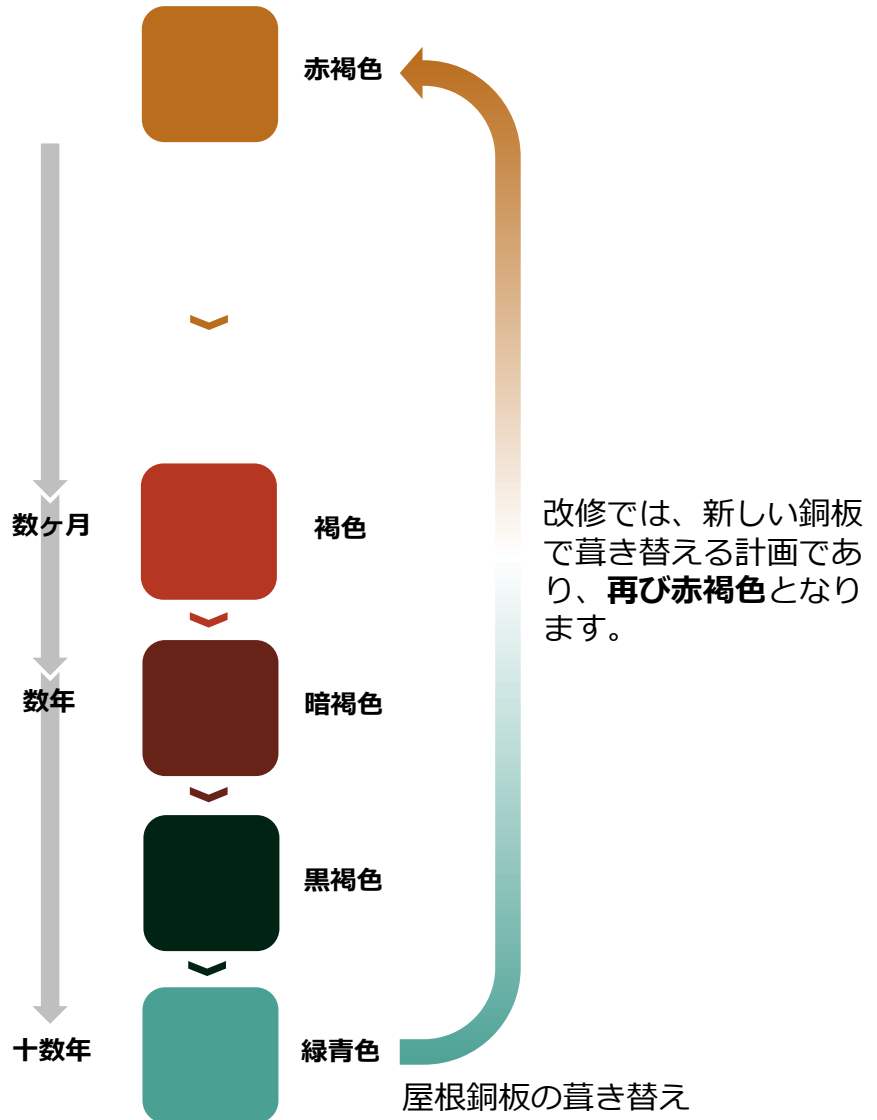
現在（改修工事前）

現在は、緑青が葺いており、青みがかった緑色です。

銅の色の経年変化

出典：一般社団法人 日本銅センター

<http://www.jcda.or.jp/feature/tabid/83/Default.aspx>



改修では、新しい銅板で葺き替える計画であり、再び赤褐色となります。

銅は、空気中の硫黄化合物や酸素、二酸化炭素、雨などの水分と反応して表面に安定した酸化皮膜が生じます。

この酸化皮膜の化学反応が進むにつれ銅の色は変化し、最終的には緑青色になります。

- ・このたびの改修では、新しい銅板で葺き替える計画であり、再び赤褐色となります。
- ・葺き替え後は、また十数年の時間をかけて緑青色へと変化していきます。
- ・令和6年（2024年）2月～4月※に葺き替え作業を予定しており、経過は仮設見学施設で見学することができます。

※令和5（2023）年11月時点での予定であり、施工時期が変更となる可能性がございます。ご了承ください。

- ・工事の経過は、道ホームページやフェイスブック、ツイッターなどで情報発信を行います。



道ホームページはこちら→



フェイスブックはこちら→